

リレー連載

戦略経営の すすめ 第7回

学会での学びが人生の進路大転換へ!!

室 勝弘

学会での学びは、企業人として力量を発揮しやすい人生環境を提供していただいたと感謝の気持ちを持続している次第です。

日本社会は、学校を卒業して一度企業に就職すると大学等に戻って学ぶことが少なく、定年まで企業人として過ごすスタイルが多く、OECD先進諸国の中で約2%程度と低い国の部類に位置づけられています。

それは、日本の企業文化が終身雇用、年功序列の伝統的な企業経営スタイルがあるからではないかと推測できます。しかし、グローバル化、IT化による交流の壁がなくなり、地域社会において、所属企業を超えて学び、交流が不可欠となっている現状をみると、学会活動は多大な役割を果たしていると思います。

私は、昭和35年に日本電信電話公社に入社しましたが、28歳の時、ケーブル敷設装置を開発し特許を取得した内容を、初めて電気通信学会（現電子情報通信学会）で発表しました。この案件で日本電信電話公社総裁表彰を受賞しました。平成9年NTTを勇退し、大明株式会社に入社しました。平成12年大明株式会社初代取締役調達本部長を拝命した時、協力会社約150社を仕切る総括責任者となり、経営力を身につけなければ統括できないと判断し、慶應義塾大学経済学部通信教育課程に学び3年半で卒業しました。この時の勉強が後に学会の学びなどを通じて勉学の継続に大きく影響したと思います。その後、大明通産株式会社が債務超過で倒産直前であるが、何とか立て直してほしいと嘆願されました。多額の借金で引き受けてがなかった会社でしたが、その会社の若い社員を見ていて、この社員をうまく仕事に巻き込めば再建は可能であると

判断し、即座に引き受けました。

多数の民事訴訟を抱え、平成14年6月に社長就任で主力銀行、裁判所、債権者への対応など超多忙な日々を過ごしました。

わずかな債権もありましたが、弁護士に依頼していたものを取下げ、自分たちで債務者の会社へ行き確認しました。小額訴訟に該当するものは裁判所に自分たちで行くなど現場主義を徹底しました。昭和45年中央大学法学部夜間部を卒業後司法試験に何回も挑戦し法律の基本を身に付けていたことも行動を勇気づけていました。当時、研究会講師で来られたテレビキャスターの黒岩氏（現神奈川県知事）と出会い、マグネット国家論のお話を拝聴しました。よしこの会社を「マグネット企業」にしようと、会社ビジョンと中期計画を立て、社員を盛り立て一枚岩となり大スクラムを組み仕事を盛り立てました。

就任初年度は、わずかでしたが400万円の黒字を出しました。この時公認会計士と費用の取り扱いをめぐり激論しました。最終的には、代表公認会計士が企業会計原則では必ずしも妥当とはいえない面があるが、法律に反しているわけではないので、社長の判断を「よし」としましょうと黒字で決着しました。同席していた、会社側常務取締役などは会計の専門家と激論する姿をみて、この決着に驚き、社長と一枚岩になって進めていく自信がついたと言っていました。次年度からは億単位の黒字となり、現在立派な会社として定着しています。

この社長時代のいろいろな学びは、結果的に経営改革に結び付くと再認識し、中央大学修士課程経済学研究科に学ぶこととしました。土曜日と平日最終時間の講座を選択し、2年間藪田先生のもとで学びました。修士課程一年目に九州大学で開かれた日本地域学会で発表し、Power Pointを初めて学びました。修士課程を終える直前、社会人も自由に参加できる丹沢先生が主催された当学会の研究会を紹介され拝聴をしたとき「これがいい、博士後期課程を総合政策で学びたいと」決心し、藪田先生に話したところ快く了解を頂きました。

66歳でしたが、リコー販売株式会社（現リコージャパン株式会社）と大明株式会社（現株式会社ミライト）に勤務しつつ、大学院と併行することには、何のためらいもなく、自然体で入学試験を受けました。ちょうどそのころ九州福岡市に出張があり、太宰府に立ち寄り、合格祈願をしたことがありました。なんとしても合格したかったのでしょう。2月に後楽園宿舎での合格発表をみて素直に嬉しかったです。もし学会で丹沢先生に出合わなければ、博士後期課程への進学はなかったであろう。博士後期課程は、殆ど土曜日だったので、ゴルフやその他の娯楽もやめゼミに集中しました。査読論文を2本パスするため、論文投稿機会を多く得るため、6つも学会に加入しました。その間、指導教授の丹沢先生は、わずかの昼休みも論文の添削指導をして頂きま

した。何とか4年目に査読論文2本獲得したのですが、今度は、英語の試験が待っていたので、ほぼ6か月往復の電車の中で英語を勉強し何とかパスしました。最終論文を手掛けて約6か月を要し、最終試験に合格した時、4年間の心温まるご指導を頂いた丹沢先生への感謝と同時に、学会を通じて出会った諸先生方や学会の各位にも感謝する次第です。学会の存在は学びへの最良の機関ではないかと思いました。

博士学位を取得後は、博士学位にふさわしい力量を企業で発揮するため、常に幅広い見識を持つ手法として、当学会をはじめ、情報通信交流会、IoT、AIサービス研究会、セミナー参加などで学んでいます。75歳になった現在、今年も当学会で10周年記念の発表となりました。企業における課題と結び付けて勉強の場を提供していただき感謝しております。現在、複数社に勤務し、各種機関、NPO、高校・大学OB会などの役員も多数引き受けていたことが人脈の広がり、多様なコミュニケーションの修得に役立っています。後輩の参考になればと思い個人的な過去を取り上げて記載してしまいました。

開かれた当学会に籍を置いて、企業人も多くの学びの機会に遭遇することにより学生、社会人、大学、地域社会などにとって大きく貢献することになると思います。

当学会が長期的な維持発展をとげられ、更なる人材を社会に排出して頂きたいと思います。

(執筆者)

室 勝弘氏は、リコージャパン株式会社・取締役